編集後記

電子書籍が借りられる公立図書館が増えてきています．ちょっと気になる程度の本だと電子書籍で十分なので，わざわざ図書館まで行かなくてもよいのはとても便利です．2週間で自動的に返却になるので，返却遅れを気にする必要もありません．

一方，紙冊子の書籍がよい場合もまだまだ多いと言えます．思索しながら，前の文章や図などを行ったり来たりするには，紙冊子の書籍のほうが圧倒的にはやいです．これは，1世紀に冊子体の書籍が発明された時からの利便性です．グーテンベルグの活版印刷発明より大きな書籍革命（コデックス革命）と言われています．それまでは，書物は巻物だったのです．読むときは「巻き戻し」をして前後を確認してなくてはなりませんでした．絵巻物では，この特性を活かして，右から左に時間軸がながれるので，アニメーション効果で面白いのですが，いくつかの箇所の記述を比較検討する思索には不便でした．電子書籍は巻物的なので，ある意味では紙冊子から退化したともいえます．

『精神神経学雑誌』も電子ジャーナル化により，どこでも気になる論文を手軽に読むことができます．電子ジャーナルで読みやすいフォントや体裁を工夫しています．一方で，紙雑誌のほうは，前後のページを行ったり来たり，他の号の他論文のあるページを折っておいて，比較したりとじっくり読むのには優れています．また，紙雑誌は表紙やデザインも工夫しているので，「もの」としての存在感は圧倒的です．

災害などでクラウドなどがダウンするリスクもあり，電子ジャーナルは学会のハードディスクに保存されるとともに，紙雑誌を保存をしています．紙雑誌は，学会の保存が万が一消失しても，他の図書館などに保存されているという面で，アーカイブスのセキュリティの観点からも必要不可欠な存在です．

さて，紙雑誌は，紙代，印刷代，送付費などがかかるのが難点です．これまで本学会は，紙雑誌をご希望の約6,000人の会員の皆さまに対し，費用を負担いただくことなく配布を続けてまいりました．しかし，学会の財政的な持続可能性，また電子版のみで閲覧いただいている会員との公平性などを考慮すると，有料化を検討する時期にきていると編集委員会では判断しています．なお，編集委員は無報酬で活動しており，雑誌制作にかかる実費には学会事務員の人件費は含まれていないことを考えると，商業誌と比較すれば非常に良心的な水準でご提供できるものと考えております．紙雑誌の魅力，存在の意義をご理解いただき，有料化をする際には，ぜひ，紙雑誌を購入をしていただきますようお願いします（多くの方が購入していただけると，スケールメリットで安くなります）．

私ごとですが，このたび，本学会監事を拝命したことから，編集委員を退任することになりました．東京大学の研修医のときに，故吉田哲雄先生から「精神神経学雑誌の校正係は勉強になるから」といわれ，1983年に本編集委員会にかかわることになり，それから延々と本誌の編集に携わってきました．本誌の刷新，発展に寄与できたことはかけがえのない経験でした．歴代の編集委員長，編集委員の先生方からは言葉では尽くせないほどの薫陶をいただきました．本誌を愛読していただいている会員の先生方の支援に感謝を申し上げます．

細田眞司